

令和元年11月15日

## 文化審議会の答申（史跡等の指定等）について

文化審議会（会長 <sup>さとう</sup>佐藤 <sup>まこと</sup>信）は、11月15日（金）に開催された同審議会文化財分科会の審議・議決を経て、特別史跡の新指定1件、史跡名勝天然記念物の新指定19件、追加指定等29件、登録記念物の新登録5件について、文部科学大臣に答申しました。今回答申された史跡等の指定等の詳細については、別紙のとおりです。

この結果、官報告示の後に、史跡名勝天然記念物は3,299件、登録記念物は117件となる予定です。

### <担当> 文化庁文化財第二課

|                   |            |
|-------------------|------------|
| 課長                | 岡本         |
| 課長補佐              | 田井         |
| 主任文化財調査官（史跡部門）    | 山下（内線2880） |
| 主任文化財調査官（名勝部門）    | 平澤（内線2881） |
| 文化財調査官（天然記念物部門）   | 江戸（内線2883） |
| 主任文化財調査官（埋蔵文化財部門） | 近江（内線2875） |
| 審議会係長             | 小島（内線3160） |

電話：03-5253-4111（代表）

別 紙

史跡名勝天然記念物

(令和元年11月15日現在)

| 種 別                  | 現在指定件数         | 今回答申件数    |          |          | 合計（現在指定件数と答申件数との合計） |
|----------------------|----------------|-----------|----------|----------|---------------------|
|                      |                | 新指定       | 解除       | 統合による減   |                     |
| 史 跡<br>(うち特別史跡)      | 1,831<br>(62)  | 16<br>(1) | 0<br>(0) | 0<br>(0) | 1,846※<br>(63)      |
| 名 勝<br>(うち特別名勝)      | 418<br>(36)    | 4<br>(0)  | 0<br>(0) | 0<br>(0) | 422<br>(36)         |
| 天然記念物<br>(うち特別天然記念物) | 1,031<br>(75)  | 0<br>(0)  | 0<br>(0) | 0<br>(0) | 1,031<br>(75)       |
| 合 計                  | 3,280<br>(173) | 20<br>(1) | 0<br>(0) | 0<br>(0) | 3,299※<br>(174)     |

(備考)

件数は、同一の物件につき、二つの種別に重複して指定が行われている場合（例えば、名勝及び天然記念物など）、それぞれの種別につき1件として数えたものです。

なお、重複指定物件を1件として数えた場合、

現在指定件数は、 3,165件

答申後合計件数は、 3,184件※ です。

※ 今回の答申件数は、史跡を特別史跡に指定する件を含むため、合計から当該史跡の件数を減じています。

## 登録記念物

| 種 別               | 現在登録件数 | 今回答申件数 |     | 合計（現在登録件数と<br>答申件数との合計） |
|-------------------|--------|--------|-----|-------------------------|
|                   |        | 新登録    | 抹 消 |                         |
| 遺跡関係              | 11     | 1      | 0   | 12                      |
| 名勝地関係             | 95     | 4      | 0   | 99                      |
| 動物、植物及び<br>地質鉱物関係 | 6      | 0      | 0   | 6                       |
| 合 計               | 112    | 5      | 0   | 117                     |

（備考）

件数は、同一の物件につき、二つの種別に重複して登録が行われている場合（例えば、遺跡関係及び名勝地関係など）、それぞれの種別につき1件として数えたものです。

なお、重複登録物件を1件として数えた場合、

現在登録件数は、 110件

答申後合計件数は、 115件 です。

## 重要文化的景観

| 種 別     | 現在選定件数 | 今回答申件数 |     | 合計（現在選定件数と<br>答申件数との合計） |
|---------|--------|--------|-----|-------------------------|
|         |        | 新選定    | 解 除 |                         |
| 重要文化的景観 | 65     | 0      | 0   | 65                      |

## 「新指定・新登録」答申物件

### 《特別史跡の新指定》

#### 【特別史跡】 1件

##### 1 さきたまこふんぐん さいたまけんぎょうだし 埼玉古墳群【埼玉県行田市】

5世紀末から7世紀初頭にかけて大宮台地おおみやだいちの先端に築かれた、前方後円墳8基、大型円墳1基及び小型円墳群からなる我が国を代表する古墳群。調査・整備・活用の取組を長期にわたり継続し優れた実績を上げており、我が国文化の象徴として極めて重要。

(前方後円墳8基、大型円墳1基及び小型円墳群からなる我が国を代表する古墳群)

### 《史跡の新指定》

#### 【史跡】 15件

##### 1 こやまざきいせき やまがたけんあくみぐんゆざまち 小山崎遺跡【山形県飽海郡遊佐町】

縄文時代中期末から後期を中心とする集落と、周辺の水辺環境の利用を目的とした土木構造物である水辺遺構みずべいこうが良好な状態で保存されていた遺跡。周辺自然景観や、古環境に関する知見も豊富であり、本州日本海沿岸北部における縄文文化を解明する上で重要。

(縄文時代中期末から後期を中心とする集落及び水辺遺構が一体的に保存された遺跡)

##### 2 いそはまこふんぐん いばらきけんひがし いばらきぐんおおあらいまち 磯浜古墳群【茨城県東茨城郡大洗町】

茨城県中部、那珂川・涸沼川水系の河口部に位置する古墳時代前期から中期初頭の古墳群。前方後円墳2基、前方後方墳1基、円墳1基ほかの6基ひさげづかこふんからなる。日下ヶ塚古墳は墳長約101.4mの大型前方後円墳で、人骨のほか鏡2面・石製模造品・玉類・鉄製品など約4,000点の豊富な副葬品ふくそうひんが出土し、車塚古墳くるまづかこふんは直径約88mで、全国屈指の規模を誇る。古墳時代前期から中期初頭の関東における古墳の展開を考える上で重要。

(古墳時代前期から中期初頭の河口部に位置する前方後円墳2基、前方後方墳1基、円墳1基ほか6基からなる古墳群)

### 3 上野国多胡郡正倉跡【群馬県高崎市】

和銅4年（711）に建郡された、上野国多胡郡の田租や出挙で徴収した稲などを収納する倉庫群跡。特別史跡多胡碑の真南約350mに位置し、発掘調査によれば正倉の創建は8世紀前半である。律令国家の税の徴収や地方支配の在り方を考える上で重要。

（特別史跡多胡碑の真南に位置する8世紀前半に創建された古代倉庫群跡）

### 4 神明貝塚【埼玉県春日部市】

奥東京湾最北部の汽水域に形成された縄文時代後期前半の馬蹄形貝塚を伴う集落遺跡の中でも最大級の規模を持つ遺跡。集落域と貝層のほぼ全体が良好な状態で保存されており、豊富な動植物遺存体と出土石器等から、集落を営んだ人々の生業形態とその地域性を知ることができる点で重要。

（奥東京湾最北部に形成された縄文時代後期前半の馬蹄形貝塚を伴う大規模集落遺跡）

### 5 午王山遺跡【埼玉県和光市】

埼玉県東南部、荒川を望む独立丘陵上に位置する弥生時代後期の大規模な環濠集落。150棟以上の竪穴建物と丘陵縁辺部に掘削された多重の環濠が検出された。北関東系や南関東系の複数の他地域の出土遺物が認められ、関東における弥生時代後期の地域間交流の実態を考える上で重要な集落遺跡。

（弥生時代後期の独立丘陵上に立地し、地域間交流を示す遺物が出土する環濠集落）

### 6 光明山古墳【静岡県浜松市】

5世紀中葉に天竜川東岸の丘陵先端に築かれた墳長83mの前方後円墳。墳丘は2段築成で葺石と埴輪を持ち、特に後円部上段には基底部分から墳頂まで続く葺石の区画石列が良好に残る。古墳時代中期の古墳築造の在り方の転換を明瞭に示す事例として重要。

（5世紀中葉に天竜川東岸の丘陵先端に築かれた、墳長83mの前方後円墳）

### 7 永原御殿跡及び伊庭御殿跡【滋賀県野洲市・東近江市】

徳川家康、秀忠、家光が上洛の際に利用した宿泊所や休憩所跡。両御殿とも中山道の脇街道である朝鮮人街道付近にある。永原御殿跡は本丸、二の丸などからなり本丸には堀と土塁が残る。伊庭御殿跡は単郭で石垣が残る。江戸初期の政治状況を知る上で重要。

（朝鮮人街道付近に位置する、徳川将軍が上洛の際に宿泊や休憩をとった御殿跡群）

## 8 あたぎしじょうかんあと わかやまけんにしむろぐんしらはまちょう 安宅氏城館跡【和歌山県西牟婁郡白浜町】

列島の東西を結ぶ海上交通の結節点である紀伊半島南部きいはんとうを本拠とする水軍領主、安宅氏の城館。豊富な史料と良好な状態で保存されている城館群は、鎌倉時代から戦国時代の水軍領主の活動や領域支配の実態と紀伊半島の政治情勢を知ることができる希有な事例。

(鎌倉時代から戦国時代の水軍領主の活動や領域支配の実態を知ることができる希有な遺跡)

## 9 おおもとこふんしまねけんますだし 大元古墳【島根県益田市】

日本海を望む丘陵上に4世紀後葉に築かれた墳長85mの前方後円墳と径12mの円墳。古墳時代前期の前方後円墳としては本州の日本海側で最も西に築造されたもので、古墳の各地への展開とヤマト政権の影響の広がりを知る上で重要。

(日本海を望む丘陵上に4世紀後葉に築かれた前方後円墳と円墳)

## 10 さぬきこくふあとかがわけんさかいでし 讃岐国府跡【香川県坂出市】

発掘調査により国府成立の前段階から衰退に至る、7世紀中葉から13世紀にかけての国府域の変遷を知ることができるとともに、『菅家文草』の記載や付近の地割りなどから国府と周辺景観を復元することができるなど、古代国家による地方支配の実態を知る上で重要。

(古代讃岐国の国府跡で、周辺も含めた古代の景観復元や古代国家の地方支配の実態を知る上で重要。)

## 11 ひけたじょうあとかがわけんひがし 引田城跡【香川県東かがわ市】

瀬戸内海の交通の要衝地、国境付近という軍事・経済上の拠点に立地し、高松城たかまつじょう、丸亀城まるがめとともに生駒氏による領国支配の拠点として機能。慶長期の城郭が良好に保存されているだけでなく、豊臣系大名の経済・軍事政策や領国支配体制を知る上で重要。

(戦国時代末期に生駒氏により整備された城。当時の経済・軍事政策や領国支配を知る上で重要。)

## 12 あえかんが いせきふくおかけんかすやぐんかすやまち 阿恵官衙遺跡【福岡県糟屋郡粕屋町】

政庁、正倉せいそうといった官衙を構成する施設が良好な状態で検出されるとともに、西海道さいかいどうえきろ駅路等の道路網や官衙の立地環境が判明。成立は評ひょうの段階まで遡り、8世紀後半

までその変遷をたどることができるなど、地方官衙の立地や成立時期、変遷を考える上で重要。

(古代糟屋評(郡)の役所跡。地方官衙の立地や成立時期、変遷を考える上で重要。)

### 1.3 杵築城跡【大分県杵築市】

豊臣政権から江戸幕府の成立、安定へと向かう社会・政治情勢の変化に応じて、その構造を大きく変えることが確認された城跡。「一国一城令」による破却以前の城の建物構成や構造が分かるなど、江戸時代初期の城郭の実態を知る上でも重要。

(守江湾に面する丘陵に位置し、その変遷は戦国から江戸時代の社会・政治情勢の変化によく対応している。)

### 1.4 鹿児島島津家墓所【鹿児島県鹿児島市・指宿市・垂水市・始良市・薩摩郡さつま町】

鹿児島藩主島津家歴代の墓所、一門家(越前・加治木・垂水・今和泉の各島津家)の墓所、一所持の宮之城島津家の墓所として営まれたもの。国持大名や有力家臣団としての威厳と風格を備え、一定の規範のもと各墓所の独自性も認められ、鹿児島藩における墓制、階層構造を知る上で貴重。

(鹿児島藩主島津家歴代の墓所と、一門家4家及び一所持1家の墓所からなる近世墓所群)

### 1.5 白保竿根田原洞穴遺跡【沖縄県石垣市】

多量の化石人骨を伴って後期旧石器時代に当たる更新世末期の墓葬及び墓域が発見された日本で初めての事例。完新世初頭から縄文時代後期に当たる時期の墓葬と合わせて、石灰岩洞穴や岩陰を利用した葬送習俗の長い歴史をたどることを可能とした。人骨そのものからも遺伝学的、形質人類学的な重要知見をもたらした画期的な意義をもつ。

(多量の化石人骨を伴う更新世末期の墓地遺跡)

## 【名勝】 4件

### 1 なりたしていえん あおもりけんひろさきし 成田氏庭園【青森県弘前市】

江戸時代末期から近代にかけて津軽地方つがるちほうに特徴ある作庭技法を継承した大石武学流おおいしぶがくりゅう庭園ていえんの優秀な事例のうち、流派の作庭規範を典型的に示しているとともに全体構成を良好に伝えている。大石武学流宗家そうけ5代いけだていげつの池田亭月の代表作として重要なもの。

(昭和7年に池田亭月によって作庭された庭園で、大石武学流の規範をよく示している。)

### 2 つしましていえん あおもりけんひろさきし 對馬氏庭園【青森県弘前市】

江戸時代末期から近代にかけて津軽地方に特徴ある作庭技法を継承した大石武学流庭園の優秀な事例のうち、観賞軸線を斜めとする点に特徴を有する。大石武学流宗家5代の池田亭月から宗家6代とのさきていようの外崎亭陽への作庭流儀の継承を考える上で重要なもの。

(池田亭月の作庭を基礎として外崎亭陽が手を加えた大石武学流庭園で、斜めの観賞軸線に特徴がある。)

### 3 すとうしていえん せいしやうえん あおもりけんひろさきし 須藤氏庭園(青松園)【青森県弘前市】

江戸時代末期から近代にかけて津軽地方に特徴ある作庭技法を継承した大石武学流庭園の優秀な事例のうち、明治時代末期に宗家4代おばたていじゅの小幡亭樹により作庭されたと伝えられる庭園。座観ざかんと逍遙しょうようの観賞形式を併せ持ち、亭樹の作庭技法をよく示している点で重要なもの。

(明治時代末期に作庭された大石武学流の池泉庭園で、小幡亭樹の作風を知る上で重要なもの)

### 4 てつがくどうこうえん とうきやうとなかのく 哲学堂公園【東京都中野区】

哲学館(後の東洋大学)創始者の井上圓了いのうええんりやうが、精神修養の普及を目的として、ソクラテス、カント、孔子、釈迦を祀った四聖堂しせいどうを明治37年に建築した私設公園を起源とするもので、昭和時代初期にわたって造営された哲学を主題とする都市公園の固有な事例。

(哲学者井上圓了が、明治時代末期から精神修養を目的に造営した公園)

## 《登録記念物の新登録》

### 【遺跡関係】 1件

#### 1 にかりょうようすい かながわけんかわさきし 二ヶ領用水【神奈川県川崎市】

けいちょう 慶長 16 年（1611）、たまがわ 多摩川右岸の低地（いなげりょう かわさきりょう 稲毛領・川崎領）の新田開発を目的として開削された用水である。近代以降、桃畑や梨畑にも利用され、昭和になると工業用水としても利用された。近世・近現代の川崎の歴史を理解する上で意義深い。

（慶長 16 年（1611）に造られ、多摩川右岸の低地を潤した用水）

## 《登録記念物の新登録》

### 【名勝地関係】 4件

#### 1 そめや していえん ちばけんかしわし 染谷氏庭園【千葉県柏市】

江戸時代に名主役を務めた染谷氏の庭園。主屋に南面する庭園、長屋門等の建造物、旧畑地のほか、アラク山と呼ばれる屋敷林等が一体となって、幕末から近代にかけて整備された旧家の屋敷地の地割や庭園の様子をよく伝えている。

（幕末から近代にかけて、建造物、屋敷林等と一体的に整えられた旧家の庭園）

#### 2 うおづうら しんきろう おたやあと とやまけんうおづし 魚津浦の蟹気楼（御旅屋跡）【富山県魚津市】

発生地域や時期が限定される稀有な じょういしんきろう 上位蟹気楼を生じる魚津浦の沿岸において、かんせい 寛政 9 年（1797）に かがはんしゅまえだはるなが 加賀藩主前田治脩が参勤交代で滞在した際に出現した蟹気楼を描かせた「きけんじょうのず 喜見城之図」が残されている。その滞在所であった おたや 御旅屋の跡地を登録するもの。

（蟹気楼の名所で、江戸時代に観賞記録が史料として残る御旅屋跡を登録するもの）

#### 3 ながみね していえん きゅうかわら していえん ながのけんながのし 長峯氏庭園（旧河原氏庭園）【長野県長野市】

江戸時代の まつしろ 松代城下に整備された 3 系統の水路を現代まで保ち、簡素なつくりの中に武家の庭園の趣を伝える池泉庭園。西に ぞうざん 象山を控え、門の前を沿道の水路である「カワ」、敷地内を「泉水路」と畑地の水路である「セギ」が通る。

（江戸時代の城下町に整備された水系を保ち、武家の庭園の趣を伝える池泉庭園）

よこやま していえん み え けん み え ぐん こ も の ちやう  
4 横山氏庭園【三重県三重郡菰野町】

菰野地域の旧家である横山氏が、昭和43年（1968）に書院の新築と茶室の移築を行った際に、<sup>しげもりみれい</sup>重森三玲に設計を依頼して造られた庭園。心字形に築山を築いた表庭，斜線状の区切りを設けて間に赤砂と白砂を交互に敷いた裏庭等が特徴的である。

（菰野地域の旧家である横山氏の居宅に，昭和43年（1968）に重森三玲が造った庭園）

## 史跡等の指定等

## 《特別史跡の新指定》 1件

### 1 <sup>さきたまこふんぐん</sup> <sup>さいたまけんぎょうだし</sup> 埼玉古墳群【埼玉県行田市】

5世紀末から7世紀初頭にかけて大宮台地の先端に築かれた古墳群。墳長120mの<sup>いなりやまこふん</sup>稲荷山古墳、墳長132mの<sup>ふたごやまこふん</sup>二子山古墳、墳長107mの<sup>てっぽうやまこふん</sup>鉄砲山古墳を上位に、墳長73mの<sup>かわらづかこふん</sup>瓦塚古墳、墳長66mの<sup>おくやまこふん</sup>奥の山古墳、墳長90mの<sup>しょうぐんやまこふん</sup>将軍山古墳、墳長54mの<sup>あたごやまこふん</sup>愛宕山古墳、墳長79mの<sup>なかやまこふん</sup>中の山古墳の8基の<sup>まると</sup>前方後円墳と、直径105mの円墳である<sup>まるはかやまこふん</sup>丸墓山古墳、稲荷山古墳の周辺に築かれた多数の小型の円墳からなる階層構造をなす。当該時期の古墳群として全国的にも突出した規模を誇り、形態に強い規格性を持つ古墳が階層性をもって継続して築造されており、古墳時代を代表する地域首長層の階層構造やヤマト政権との関係等の政治的動向、首長墓の展開を継続的に追究できる点で重要。稲荷山古墳や将軍山古墳出土の副葬品は中国大陸や朝鮮半島との交流の実態を物語るとともに、稲荷山古墳出土の<sup>しんがいねん</sup>辛亥年の紀年銘を持つ<sup>きんさくめいてっけん</sup>金錯銘鉄剣は古墳時代研究に欠くことのできない資料として他の稲荷山古墳出土副葬品とともに国宝に指定されている。

調査・整備・活用の取組を長期にわたり継続し優れた実績を上げてきており、我が国文化の象徴たる史跡として極めて重要。

## 《史跡の新指定》 15件

### 1 <sup>こやまざきいせき</sup> <sup>やまがたけんあくみぐんゆざまち</sup> 小山崎遺跡【山形県飽海郡遊佐町】

山形県の県北、秋田県に接する遊佐町に所在する縄文時代中期末から後期を中心とした集落遺跡である。東北地方日本海側最高峰の<sup>ちようかいざん</sup>鳥海山の南西麓に位置する。遺跡東側には縄文時代から存在する湧水地の<sup>まるいけ</sup>「丸池」が残る。遺跡では丘陵斜面とその南側の低地を中心として、縄文時代早期から晩期までの活動痕跡が確認されている。遺跡の最盛期は中期末から後期後葉で、中期末に斜面地において竪穴建物が営まれはじめ、後期前葉には集落とともに、南側の低地において<sup>みずべいこう</sup>水辺遺構が形成された。水辺遺構は<sup>しきいし</sup>敷石と<sup>もくじき</sup>打ち込み杭列、木敷等によって構築された水辺環境を利用するための施設で、居住域と水辺をつなぐ道と、付設した作業場からなる。居住域だけでなく水辺環境の利用を目的とした土木構造物である水辺遺構が良好な状態で保存されている数少ない遺跡である。また、「丸池」を含む周辺自然景観がよく保全されているとともに、自然遺物を含め古環境やその利用形態に関する知

見も豊富に得られている。縄文時代の人々がどのように環境適応を果たしてきたのかを知る上でも貴重であり、本州日本海沿岸北部における縄文文化を解明する上で欠くことのできない遺跡である。

## 2 磯浜古墳群【茨城県東茨城郡大洗町】

太平洋に注ぎ込む那珂川の河口から南西約3km、太平洋に面して南北に細長い鹿島台地の北端近くに立地する古墳時代前期から中期初頭の古墳群である。昭和24年の日下ヶ塚古墳の発掘調査で、長大な粘土槨、内行花文鏡・変形四獣鏡、石釧、勾玉、管玉、ガラス製小玉、大刀、鉄製農具類、石製模造品、滑石製臼玉、木製櫛などの約4,000点に及ぶ副葬品が発見されヤマト政権との密接な関係が想定される東国の前期後葉の代表的な前方後円墳と考えられた。その後の調査で、周濠が巡ること、墳長が101.4mで墳丘には壺形埴輪・円筒埴輪を樹立することが判明した。本古墳群で最も古いと考えられる墳長29mの前方後方墳の姫塚古墳、詳細が不明な五本松古墳や五本松下古墳、墳長約60mの前方後円墳である坊主山古墳などが築造されたとみられる。前期後葉には本古墳群最大の日下ヶ塚古墳、前期末から中期初頭に直径88mの円墳である車塚古墳が築造された。前期前葉から中期初頭までの古墳の系譜が辿れ、墳形・規模・外表施設に変遷が認められることから、本古墳群の首長層が古墳築造に係る新たな要素を受容したことを示し、地域における古墳文化の受容の実態を具体的に示している。ヤマト政権における東国経営の在り方のみならず、ヤマト政権と地域首長層との関係性を知る上で重要な古墳群である。

## 3 上野国多胡郡正倉跡【群馬県高崎市】

和銅4年(711)に建郡された上野国多胡郡における、田租や出挙で徴収した稲などを収納する倉庫群跡である。真北約350mには、多胡郡の建郡を記した我が国ただ一つの建郡碑である特別史跡多胡碑が建っている。正倉院の区画としては南北幅約210m、北辺の東西幅55m以上で、幅2~3mの溝で囲まれている。区画内からは礎石建物が2棟検出され、その他にも、礎石と思われる大型の石の分布や瓦の堆積などから、多くの建物があつたことが推定される。このうち、北端で検出された礎石建物は、梁行3間・桁行7間の大型で、基壇付きの総瓦葺建物である。遺物としては、瓦、炭化米のほか、先述の総瓦葺建物付近から壁土と思われる被熱粘土塊が出土しており、長元3年(1030)の『上野国交替実録帳』に記載のある土倉があつたことを傍証する資料である。多胡郡の

建郡に伴って新たに建てられた正倉跡であり、古代官衙の実態や律令国家の税の徴収、地方の支配の在り方を考える上で重要である。

#### 4 神明貝塚【埼玉県春日部市】

埼玉県東部の春日部市に位置する、奥東京湾最北部の汽水域に形成された縄文時代後期前半の馬蹄形貝塚を伴う集落遺跡の中でも最大級の規模を持つ遺跡である。下総台地西端の標高10m前後の平坦地に立地し、貝塚は東西160m、南北140mの範囲に広がり、北東部に幅20～30mの開口部を持つ。検出遺構には、<sup>たてあなたてもの</sup> 竪穴建物31棟、<sup>どこう</sup> 土坑36基、<sup>どこうぼ</sup> 土壇墓5基などがある。貝塚の北部や東部では、後期前葉の堀之内1式期に竪穴建物の構築が始まり、同2式期にかけて貝層の堆積を伴いつつ竪穴建物の埋積が進む。この過程で貝層中に土壇墓や焼土跡が構築されている。<sup>かそり</sup> 加曽利B式期には貝塚の内側で竪穴建物が構築される。貝塚南部では堀之内1式期の竪穴建物が密集しており、この時期の集落の中心であった。このように時期を経るごとに集落構造が変化するとともに、堀之内式期の竪穴建物の平面形は円形であったものが、加曽利B式期には方形へと変化している。<sup>ほうしゃせいたんそ</sup> 放射性炭素年代測定の結果、集落の存続期間はおよそ300～400年であり、縄文時代後期前葉から中葉にかけての比較的短期間に営まれた。豊富な<sup>どうしよくぶついでんたい</sup> 動植物遺存体と<sup>あんていどういたいひ</sup> 出土石器、安定同位体比分析等からは、奥東京湾汽水域という立地を背景とした生業形態の地域特性を知ることができる。集落域と貝層のほぼ全体が良好な状態で保存されており、集落を営んだ人々の生業形態とその地域性を知ることができる点で重要である。

#### 5 午王山遺跡【埼玉県和光市】

<sup>むさしのだいち</sup> 武蔵野台地の北東端部、<sup>あらかわていち</sup> 荒川低地を望む標高24～25mの独立丘陵上に位置する弥生時代後期の環濠集落である。昭和53年から15回にわたる発掘調査が実施され、集落の構造が明らかとなった。<sup>たてあなたてもの</sup> 竪穴建物は中期後半から後期の約150棟が検出され、時期により竪穴建物の平面形態に変遷を確認した。環濠は後期中葉前半に掘削され、後期中葉後半には埋没したと考えられる。ほぼ並行して二重に掘削されており、同時に機能したとみられる。<sup>ほうけいしゅうこうぼ</sup> 方形周溝墓は、環濠外の南東部で5基検出されたが、埋葬施設や時期等は不明である。出土土器には、中期後半には南関東系、後期前葉には南関東系と北関東系とが共存し、後期中葉になると東海東部に系譜が求められる土器が主体となる。時期により異なる系統の土器が確認でき、関東では出土事例が少ない<sup>どうたくがたどせいひん</sup> 銅鐸形土製品や<sup>おびじょうえんかんどくしる</sup> 带状円環銅釧が出土したことは、本遺跡が遠隔地との交流や往来があったことを示す。関東では類例の少ない弥生

時代後期の同時性が確認できる多重環濠集落の成立から廃絶までの過程が明らかとなった遺跡であり、荒川中流域と南北関東の地域間交流の接点として機能するなど、関東における弥生文化の交流の実態を知る上で重要な集落遺跡である。

## 6 光明山古墳【静岡県浜松市】

5世紀中葉に天竜川東岸の丘陵先端に築かれた前方後円墳。眼下には遠江と信濃を繋ぐ陸上交通路である秋葉街道が通じ、丘陵を隔てた西側には天竜川が南流するなど、交通の要衝に立地する。墳長83m、後円部径48m、後円部高8.5m、前方部高8.3mで、墳丘は2段築成である。丘陵先端を切断して構築しており、墳丘の周囲幅10mほどを平坦に造成している。墳丘斜面には葺石を施し、特に後円部北側上段では基底部から墳頂部まで6m以上を一直線に結ぶ区画石列が確認されるなど、葺石の遺存状態が極めて良好な箇所がある。円筒埴輪と朝顔形埴輪が出土しており、どちらも2条の突帯を巡らす3段構成で、製作技法としていわゆる淡輪技法が用いられている。

当該時期において東海地域でも屈指の規模を誇る前方後円墳であり、特徴的な埴輪を採用するなどの独自性を持ちつつそれまで古墳の築造がみられなかった内陸交通の要衝の地に突如として築かれている。古墳時代中期におけるヤマト政権の交通政策の変革に伴う古墳築造の在り方の転換と、そうした在り方を受容した地域首長の動向を明瞭に示す事例として重要。

## 7 永原御殿跡及び伊庭御殿跡【滋賀県野洲市・東近江市】

徳川家専用の宿泊及び休憩施設跡のうち、朝鮮人街道に近接する二つの遺跡である。家康、秀忠、家光らが将軍宣下、慶長19年(1614)から元和元年(1615)にかけての大坂冬の陣・夏の陣、寛永3年(1626)の後水尾天皇二条城行幸に際しての上洛の途中で御殿が利用された。

永原御殿跡のある野洲郡は、関ヶ原の戦いまで家康の最も西方の領地であった。御殿は本丸、二の丸などからなり、本丸は歪な四辺形を呈し、西辺の南北長136m、南辺の東西長が128.5mの規模で、周囲には高さ約3mの土塁、その外側に幅16~20mの堀が残る。発掘調査では、指図に示された古御殿や御亭と考えられる礎石建物が検出された。

伊庭御殿跡は、彦根城と永原御殿の中間に位置し、南北約90m、東西約35mの規模を持つ。発掘調査により石垣、石列、井戸が見つかり、石垣の位置が指図と一致する。主

に食事や休憩のための施設であったと考えられる。これらは、幕藩制確立期に將軍の權威を示すために行われた上洛の実態を具体的に示した、全国的に見ても貴重な遺跡である。

## 8 安宅氏城館跡【和歌山県西牟婁郡白浜町】

日置川下流域、安宅荘に本拠を置いた安宅氏により築かれた安宅氏居館跡、八幡山城跡、中山城跡、土井城跡、要害山城跡からなる城館群。日置川と安宅川に囲まれた低地に立地する安宅氏居館跡は、紀伊山地から運ばれる物資の集積地や太平洋航路を利用した交易港である日置浦の管理に最適の地であり、発掘調査でも近畿や東海からもたらされた土器類がまとまって出土している。その背後の丘陵に築かれた八幡山城は、詰めの城として設けられたと考えられ、石垣を用いる土塁や横堀などによって堅牢な防御を施す。また、日置川流域の中でも広い平野である田野井平野の入り口に当たる部分には土井城を、平野の中央に位置する丘陵には中山城を置き、西側の富田荘との間には要害山城を置く。これらの城の配置は安宅氏が西側からの陸路による侵攻を意識し、防御を固めていたことを示すと考えられる。紀伊半島南部は、列島の東西を結ぶ海上交通の結節点であり、そこには水軍を率い交易や軍事に携わる複数の領主がいたが、安宅氏城館跡は、その中でも豊富な史料と良好な状態で保存されている城館群であり、鎌倉時代から戦国時代の水軍領主の活動や領域支配の実態だけでなく、紀伊半島の政治情勢を知ることができる希有な事例である。

## 9 大元古墳【島根県益田市】

日本海を望む丘陵上に4世紀後葉に築かれた前方後円墳と円墳。前方後円墳の1号墳は墳長85m、後円部最大径52m、後円部高さ約7m、前方部長43～45mである。墳丘は2段築成で、上段にのみ葺石を施す。後円部では東から西に伸びる細い尾根を切断して古墳の範囲を画すとともに墳丘の大部分を地山削り出しにより成形するなど自然地形を巧みに利用して古墳を造っている。そのため特に後円部北側から東側にかけていびつな形をなしている。日本海側から臨まれる後円部から前方部にかけての北西斜面には墳裾より下方に基壇状の造成がなされており、それを含めた全長は90mに及ぶ。後円部の墳頂部には円筒埴輪が巡る。円墳の2号墳は径12m、高さ1mで、1号墳側から続く尾根を切断し、地山削り出しにより成形している。葺石は持たないが円筒埴輪が出土している。

古墳時代前期後半には日本各地に前方後円墳が広く展開するが、それらの中でも石見地域最大の前方後円墳として本州の日本海側で最も西に築造されたものであり、我が国における古墳の展開とヤマト政権の影響の広がりを知る上で重要。

## 10 讃岐国府跡【香川県坂出市】

古代の条里地割が良好に残る綾北平野の最奥に位置する古代讃岐国の国府跡。讃岐守を務めた菅原道真の漢詩集『菅家文草』の記載や周辺の地割の検討などから、周辺施設や景観も含めた国府研究が早くからなされてきた。平成23年からは香川県教育委員会による開法寺東方地区の発掘調査が開始され、国府成立以前の7世紀中葉から廃絶後の13世紀にかけての遺構が検出された。それよると7世紀後半には、初期讃岐国府か阿野評家、史跡城山の関連施設等の可能性が指摘される正方位を指向する官衙関連遺構が出現し、8世紀前半には条里地割方向の規則性が高い施設が現れる。そして、8世紀中葉から11世紀にかけては、大型建物をはじめとする複数の掘立柱建物からなる方1町程度の区画が現れ、建て替えを繰り返しながらも長期にわたって維持される。11世紀中葉から13世紀になると、井戸を有する一辺40m程度の屋敷地が3ブロック確認されるようになる。7世紀中葉から13世紀にかけての国府域の変遷を知ることができるとともに、『菅家文草』の記載や付近の地割などから国府とその周辺の景観を復元するための情報にも恵まれており、古代国家による地方支配の実態を知る上で極めて重要な遺跡である。

## 11 引田城跡【香川県東かがわ市】

香川県の南東部、阿波との国境を画する阿讃山脈の北麓、引田港の北側にある岬状に突き出した城山に所在する城跡。長宗我部氏による讃岐侵攻の際には、重要な軍事拠点となったことが知られ、天正15年(1587)には生駒親正が入城したとされる。生駒氏は、その後、高松城、丸亀城を築き、引田城はこの二つの城とともに生駒氏による領国支配の拠点となり、寛永19年(1642)までには廃城されたと考えられる。城跡は、山頂付近の曲輪群、鞍部から山麓部の屋敷地・大手道・貯水池などの諸施設からなり、そのいずれもが良好な状態で残る。各曲輪は馬蹄形を呈する尾根頂部を巧みに利用し、大手道から突き当たった北二の丸・南二の丸を中心としてU字形に計画的に配置されている。また、各曲輪の石垣は野面積みを基調とし、総延長は約600mに及び、その形状や出土遺物からして、これらは慶長期(1596～1615)に整備されたことが分かる。慶長期の城郭が良好に保存されているだけでなく、瀬戸内海の交通の要衝地、国境付近という軍事、経済上の拠点に立地する生駒氏による領国支配の拠点の一つであり、豊臣系大名の経済・軍事政策や領国支配体制を知る上で重要である。

## 1 2 阿恵官衙遺跡【福岡県糟屋郡粕屋町】

粕屋平野の中央部、須恵川下流の標高6～8mの微高地上に立地する古代糟屋評（郡）の役所跡。糟屋評は698年に製作された国宝妙心寺梵鐘（京都府）の銘に「糟屋評造春米連廣國」とあることから、7世紀末の評造の名が分かる数少ない例としても注目される。また、遺跡の北方を北東から南西方向に向けて西海道駅路が通過する交通の要衝にも当たる。九州大学農学部附属原町農場の移転に伴う発掘調査で、敷地の中央部を東西に延びる幅約100mの微高地上に、政庁跡、正倉群、西海道駅路から分岐する道路跡などを検出した。7世紀後半に成立した政庁は2度の改変を経て8世紀前半に廃絶するが、正倉群は7世紀後半から順次、建てられ、政庁が廃絶した後8世紀中頃から後半にも建物主軸方位を正方位とする正倉が建築されることなどが明らかになった。政庁、正倉といった官衙を構成する施設が良好な状態で検出されるとともに、西海道駅路等の道路網との関係など官衙の立地環境が判明した。また、成立は評の段階まで遡り、8世紀後半までその変遷をたどることができるなど、地方官衙の立地や成立時期、変遷を考える上で重要である。

## 1 3 杵築城跡【大分県杵築市】

国東半島の南側、守江湾に注ぎ込む高山川と八坂川に挟まれた丘陵にあたる台山地区とその北麓の藩主御殿地区からなる城跡。台山地区には、土塁の一部や堀切りの痕跡が認められ、藩主御殿地区には、堀、石垣、庭園が残る。豊富に残る文献史料と発掘調査成果から、この城は、慶長元年（1596）以降に杉原長房、早川長敏ら豊臣系大名による整備段階、慶長6年に細川忠興の城代として入部した松井康之による整備段階、「一国一城令」による台山地区の破却と藩主御殿地区の整備段階の三時期に大別されることが分かった。杉原・早川段階の城は山麓部（藩主御殿地区）に舟入を設けた海城であったと考えられ、松井氏入部以後は、基本的にその形態を維持しつつも台山地区の諸施設が大規模に改変されたことが文書から知られる。台山地区の施設は「一国一城令」により、解体・破却されるが、その時、解体された建物については「木付御城こわし申所付之帳」に記されており、慶長期以前の建物の数や規模等が判明している。また、この破却に前後して山麓に藩主御殿が造られたと考えられる。杵築城は、豊臣政権から江戸幕府の成立、安定へと向かう社会の変化に応じて、その構造を大きく変えるなど、その変遷はその時々社会、政治情勢を反映している。「一国一城令」による破却以前の城の建物構成や構造が分かるなど、江戸時代初期の城郭の実態を知る上でも重要である。

#### 1 4 鹿児島島津家墓所【鹿児島県鹿児島市・指宿市・垂水市・始良市・薩摩郡さつま町】

江戸時代、鹿児島藩（薩摩藩とも）を治めた大名である鹿児島藩主島津家（島津宗家）と、一門家と呼ぶ藩主親族家である越前・加治木・垂水・今和泉の各島津家、一所持である宮之城島津家の合計6家7箇所からなる近世の武家墓所である。宗家墓所では墓碑に山川石を用い、最大規模の宝篋印塔を採用するのに対し、宗家以外の墓所では、山川石以外の石材を用いて宗家よりも規模の小さな宝篋印塔や、五輪塔や石廟等の他の形態の墓碑を採用する等、墓碑の形態・規模・石材に宗家を頂点とした階層性が反映されている。その一方、墓石の配置や、墓碑形態の変遷、墓域の拡張などにおいても各墓所の特色がみられる等、一定の規範の下、各墓所の独自性も認められる。このように、鹿児島島津家墓所は、国持大名や有力家臣としての威厳と風格を備え、規模も大きく、近代以後の改変も少なく往時の状況をよく残す。墓制・葬制を通じて藩主（宗家）を頂点とした鹿児島藩の最上層の階層構造を良好に示すものとして貴重である。

#### 1 5 白保竿根田原洞穴遺跡【沖縄県石垣市】

沖縄県石垣市に所在する更新世末期の墓地遺跡である。琉球列島の西端に位置する八重山諸島の一つ石垣島の東海岸に位置する。遺跡は、東西全長約1 kmの鍾乳洞の天井が崩落したことで生じた陥没穴の開口部及びその内部に続く洞内緩斜面からなる。約5万年前までに洞天井が崩落して開口し、そこから風成の洞穴斜面堆積物が形成される中で遺跡の利用が開始している。文化層は旧石器時代に並行する更新世終末期から近世までの時期が確認され、更新世に属する人工遺物が未確認ではあるが、更新世及び完新世初頭、下田原期の風成堆積層中には、20個体に上る化石人骨が含まれることが明らかとなった。このうち崩落した岩石の隙間から出土した更新世の4号人骨は埋没時の解剖学的な結合状態を推定できたことから、仰臥屈葬姿勢を示すことが判明した。他の人骨集中も、人骨の状態及び出土状況から見て墓葬の単位を表すことが考えられる。それらの年代値は約27,000～20,000年前であることから、本遺跡は、長期にわたって利用された墓域であったと推定できる。同様の葬送は完新世初頭から下田原期にも認めることができる。本遺跡は、多量の化石人骨を伴って更新世末期の墓葬及び墓域が発見された日本で初めての事例であり、完新世初頭から縄文時代後期相当期の墓葬と合わせて、石灰岩洞穴や岩陰を利用した葬送習俗の長い歴史をたどることを可能とした。人骨そのものからも遺伝学的、形質人類学的な重要知見をもたらした画期的な意義を持つ遺跡である。

## 《名勝の新指定》 4件

### 1 なりた していえん あおもりけんひろさきし 成田氏庭園【青森県弘前市】

弘前市街中心部から南西約2 kmに位置し、洪積台地上に所在するりんご農家の住宅庭園で、成田幸吉（1878～1964）を施主とし、大石武学流宗家5代の池田亭月によって昭和7年（1932）に作庭された。敷地は、その西方を北に流れる寺沢川の右岸側に広がる微高地にあり、東方に向かって登る緩斜面に石積を用いて平坦部を造成し、岩木山に向いて北西方を軸とする入母屋造の主屋座敷の正面に主庭、南西向き玄関の正面と西脇にそれぞれ前庭と横庭を設けるのを全体の地割としている。主庭の地割は、主屋座敷前に庭前を設けて大石武学流庭園の要となる礼拝石の奥に枯池を置き、さらに、右手奥の築山、左手奥の平庭を配して、小規模ながら流派の典型的な定石を優れて実現している。大石武学流庭園の優秀な事例の中でも、小規模ながら流派の作庭規範を典型的に示しているとともに、主屋をめぐる主庭、前庭、横庭の全体構成を良好に伝えていて、宗家5代池田亭月の代表作として重要である。

### 2 つしま していえん あおもりけんひろさきし 對馬氏庭園【青森県弘前市】

弘前市街中心部から北西約6 kmに位置し、岩木山由来の火山性台地上の折笠地区に所在するりんご農家の住宅庭園で、書画骨董にも通じていた對馬氏の当主竹五郎（1884～1971）が昭和3年（1928）に宮館地区の旧家の屋敷を移築して主屋としたのに伴って、大石武学流宗家5代の池田亭月に依頼して作庭されたのを始めとし、昭和20年代後半に大石武学流宗家6代の外崎亭陽が既存の庭園の地割を踏襲しながら一部に手を加えて完成させた。主庭は大石武学流の定石に則って座敷からの座観としている一方で、沓脱石、飛び石、礼拝石を南東方に向けて並べ、座敷から斜めに左奥手を正面とし、敷地に対して長大な軸線を設けている点に本庭園固有の顕著な特徴を見ることができる。大石武学流庭園の優秀な事例の中でも、小規模な敷地に軸線を斜めに設定することによって奥行を表現しつつ、正面の左右に広がる造成地形を設けて変化のある風致の広がりを実現するなど、固有な地割の工夫をめぐらした特徴ある作庭に更に手を加えて完成された点において、作庭流儀の継承と深化の様相を知る上で重要である。

### 3 須藤氏庭園（青松園）【青森県弘前市】

弘前市街中心部から北北西方約5 kmに位置し、岩木山扇状地末端の丘陵地から大蜂川の間広がる平野部の旧高杉村前坂地区に所在する住宅庭園で、医師で地域の名士であった須藤繁文（1874～1945）を施主として、明治時代末年までに大石武学流宗家4代の小幡亭樹によって作庭された。昭和11年には、陸軍の耐寒演習に行軍した秩父宮雍仁親王が昼食休憩のため来訪した履歴を園内の記念碑に刻むとともに瀟洒な記念堂を建てた。主屋は座敷を南東側の主庭に向けた寄棟造茅葺で、主庭に面した軒先を三重の船柵造として当時の弘前郊外の奢侈的建築の様相の一端を伝えている。主庭は、座敷からの座観を基本としつつ、庭前を小さく納め、池泉を地割の要とする。池泉には座敷の正面の中島に橋を渡して逍遙するための飛び石を打ち、対岸に守護石を据えて、その背後に築山を設ける。座観と逍遙の観賞形式を併せ持ち、全体に小振りの石を用いて規模は小さいながらも、盛美園の地割に相似するもので、亭樹に特徴ある作庭技法の一端をよく伝えている点で重要である。

### 4 哲学堂公園【東京都中野区】

哲学堂公園は東京西郊に位置し、神田川の支流である妙正寺川を挟んで、左岸側の台地部（標高約38 m）と比高差約10 mで左岸から右岸に続く低地部から成る。哲学館（後の東洋大学）の創始者である井上圓了（1858～1919）は、この場所に私財を投じて東西古今の哲学の世界的な四聖人を祀った「四聖堂」を明治37年に建設した。同39年にはその一帯を「精神修養的公園」とする構想を立て、明治42年以降、「六賢台」「三学亭」「唯物園」「唯心庭」など、「七十七場」と称する哲学上の観念を表現した数々の名所を配置して、大正4年までに全容を整えた。大正8年に圓了が急逝すると、嫡子の玄一（1888～1972）が代表理事を務める財団法人哲学堂が設立され、大正10年から運動場、児童遊戯場、休憩所、梅林などを追加して整え、広く開放すべき社会教育の道場としての哲学堂の意義を深めた。昭和19年に東京都に寄附され、昭和21年には都市公園として開設された。昭和50年には中野区へ移管され、今日に至っている。哲学に基づく独創的な構成と意匠はいまもよく維持されていて、日本公園史上において顕著に固有な事例である。

## 《特別史跡の追加指定》 3件

### 1 無量光院跡【岩手県西磐井郡平泉町】

12世紀後半、奥州藤原氏第3代の藤原秀衡が宇治の平等院に倣って造営した寺院跡。土塁で囲まれた内部に、三つ島を配した池があり、中心の中島には阿弥陀堂あみだどうが設けられていた。今回、東側の猫間ねこまが淵ふちに張り出した、柳之御所遺跡やなぎのごしよいせきに接続する部分を追加する。

### 2 遠江国分寺跡【静岡県磐田市】

天平13年(741)、国分寺造立の詔みことのりに基づいて建立された国分寺跡の一つ。これまで南大門、中門、金堂、講堂、塔などの遺構が見つまっている。金堂などは木装基壇もくそうきだんであることが分かっている。条件の整った、既指定地の東側を追加指定する。

### 3 水城跡【福岡県太宰府市・大野城市・春日市】

天智天皇3年(664)、唐・新羅の侵攻に備えて築造され、後に大宰府だざいふを守った防御施設。全長約1.2kmに及ぶ土塁と濠ほからなり、古代の軍事を知る上で貴重である。今回、西門跡付近など条件の整った部分を追加指定する。

## 《特別天然記念物の追加指定》 1件

### 1 白骨温泉の噴湯丘と球状石灰石【長野県松本市】

炭酸カルシウムに富む温泉の湧出に伴って生成されたもので、温泉噴出孔に温泉沈殿物が円錐形に堆積した丘状地形きゅうじょうちけいと、石灰華中から産出する球形・卵形・多面体を呈す方解石ほうかいせきである。形成基盤である石灰華分布域について追加指定する。

## 《史跡の追加指定及び名称変更》 2件

### 1 おおのほらこふんぐん **大野原古墳群** かがわけんかんおんじし **【香川県観音寺市】**

わんかしづかこふん  
**椀貸塚古墳**

ひらづかこふん  
**平塚古墳**

かくづかこふん  
**角塚古墳**

いわくらづかこふん  
**岩倉塚古墳**

いわくらづかこふん  
(岩倉塚古墳を加える)

古墳時代後期から終末期の四国最大規模の横穴式石室と円墳・方墳などで構成される古墳群。椀貸塚古墳は四国最大規模の全長14.8mの横穴式石室と2重の周濠をもつ円墳、四国最大規模の円墳の平塚古墳と大型方墳の角塚古墳からなる。今回、椀貸塚古墳に隣接する岩倉塚古墳を追加指定し、名称を変更する。

### 2 ながさきだいばあと **長崎台場跡** ながさきけんながさきし **【長崎県長崎市】**

うおみだけだいばあと  
**魚見岳台場跡**

しろうがしまだいばあと  
**四郎ヶ島台場跡**

めがみだいばあと  
**女神台場跡**

めがみだいばあと  
(女神台場跡を加える)

江戸時代、長崎警備のため長崎港内外に築造された台場跡。承応4年(1655)築造の古台場、文化5年(1808)築造の新台場、同7年の増台場、幕末期の各台場からなる。今回、古台場であり後に増強されて新台場が設けられ、その御石蔵跡が見つかった女神台場跡を追加指定し、名称を変更する。

## 《名勝の追加指定及び名称変更》 2件

### 1 たがたいしゃていえん **多賀大社庭園** しがけんいぬかみぐんたがちょう **【滋賀県犬上郡多賀町】**

既指定の奥書院庭園の背景となっている神苑のほか、奥書院庭園と連続する東庭、奥書院にも面する参集殿中庭等、境内地の景観を形づくっている部分を追加指定して一体的な保護を図り、名称を「多賀大社庭園」に変更する。

## 2 <sup>ひ こさんていえん</sup> 英彦山庭園 <sup>ふくおかけん たがわぐんそえだまち</sup> 【福岡県田川郡添田町】

<sup>きゅうざ すいん ごほんぼうていえん</sup>  
旧座主院御本坊庭園

<sup>きゅうざ すいん おしも やていえん</sup>  
旧座主院御下屋庭園

<sup>きゅうまんどころぼうていえん</sup>  
旧政所坊庭園

<sup>きゅうかめいしぼうていえん</sup>  
旧亀石坊庭園

<sup>きゅうせんぞうぼうていえん</sup>  
旧泉蔵坊庭園

<sup>きゅうけんようぼうていえん</sup>  
旧顕揚坊庭園

<sup>ひ こさんじんぐうりよでんていえん</sup>  
英彦山神宮旅殿庭園

名勝旧亀石坊庭園に、英彦山の坊跡に良好な状態で遺存する旧座主院御本坊庭園、旧座主院御下屋庭園、旧政所坊庭園、旧泉蔵坊庭園、旧顕揚坊庭園の5庭園と英彦山神宮旅殿庭園を追加して、「英彦山庭園」の総称の下に、一連の庭園群として一体的に保護するもの。

### 《史跡の追加指定》 21件

## 1 <sup>かめがおかせつきじだいせいせき</sup> 亀ヶ岡石器時代遺跡 <sup>あおもりけん</sup> 【青森県つがる市】

縄文時代晩期の亀ヶ岡文化圏における墓域を主体とする遺跡。110基という土坑墓の数から、本遺跡は亀ヶ岡文化圏における共同墓地的な性格を有する遺跡の代表例であり、当時の葬墓制や社会の在り方を考察する上で欠かすことのできない遺跡。条件が整った部分を追加指定する。

## 2 <sup>いり さわいせいせき</sup> 入の沢遺跡 <sup>みやぎけんくりはらし</sup> 【宮城県栗原市】

丘陵先端部の立地、大溝と材木堀に囲まれることから高い防御性を示すとともに、同時期の大型古墳の副葬品と一致する出土遺物の存在から古墳時代前期後半におけるヤマト政権の東北経営を考える上で重要な大規模集落遺跡。今回、大溝や旧地形を残す範囲で条件の整った部分を追加指定する。

## 3 <sup>あつ か しやまぼうらい</sup> 阿津賀志山防塁 <sup>ふくしまけん だてぐんくにみまち</sup> 【福島県伊達郡国見町】

<sup>ぶんじ</sup> 文治5年（1189）の <sup>みなもとのよりとも</sup> 源頼朝軍の <sup>おうしゅうふじわらし</sup> 奥州遠征に備えて奥州藤原氏方が造営した、阿津賀志山中腹から <sup>あぶくまがわ</sup> 阿武隈川にかけての全長約3.2kmに及ぶ防塁。土塁は二重をなす部分と三重をなす部分があり、堀と土塁を含めた幅は広い所で40mほどに及ぶ。

#### 4 はちまんやまこふん ぐんまけんまえばしし 八幡山古墳【群馬県前橋市】

まえばしだいち 前橋台地の北端に4世紀前半に築造された、墳長130mの前方後方墳。墳丘は2段築成で葺石を持ち、周囲には不整形の周濠が巡りその総長は190m以上に及ぶ。前方後方墳としては東日本最大の規模を誇る。

#### 5 きたやついせき ぐんまけんたかさきし 北谷遺跡【群馬県高崎市】

はるなさん 榛名山東南麓に広がる台地上に立地する5世紀後半の豪族居館。一辺90mの方形をなし、周囲は自然地形を利用しつつ開削した濠に囲まれる。各辺には張出施設が2か所ずつあり、外周の斜面には石積みを持つ。古墳時代の大規模な豪族居館として重要。

#### 6 はらかんが いせきぐん さいたまけんくまがやし ふかやし 幡羅官衙遺跡群【埼玉県熊谷市・深谷市】

##### はらかんが いせき 幡羅官衙遺跡

##### にしべつがさいしいせき 西別府祭祀遺跡

古代幡羅郡家及びその祭祀場等からなる官衙遺跡群。正倉院をはじめとする官衙施設、祭祀場など郡家を構成する諸施設が良好な状態でまとまって検出され、郡家の全体像が把握できるとともに、造営から廃絶までの過程が確認できる希有な遺跡。地方官衙の構造や立地を知る上でも重要。条件が整った部分を追加指定する。

#### 7 さとみ しるあと ちばけんたてやまし みなみぼうそうし 里見氏城跡【千葉県館山市・南房総市】

##### いなむらじょうあと 稲村城跡

##### おかもとじょうあと 岡本城跡

戦国時代、房総半島に覇を唱えた大名の城跡群である。領国拡張期の稲村城跡、家督を巡る内紛を収めた里見義頼が本城とした岡本城跡からなる。今回、岡本城跡の西側、港として機能したと考えられる入江南端部の平坦地を追加する。

#### 8 したの や いせき とうきょうと にしとうきょうし 下野谷遺跡【東京都西東京市】

墓と考えられる中央部の土坑群を取り囲むように、たてあなたてもぐん ほったてばしらたてもぐん 竪穴建物群と掘立柱建物群が直径150mの範囲で配置される。規模・内容とも南関東の同時期の集落では傑出しており、縄文時代中期後半の大規模な環状集落として重要。今回、条件の整った部分を追加指定する。

## 9 かわしりせつ きじだい いせき かながわけんきがみはらし 川尻石器時代遺跡【神奈川県相模原市】

縄文時代中期から晩期にかけて谷津川右岸に長期間継続した大規模拠点集落。豊富な遺物とともに、敷石建物や配石墓など礫石を多用した遺構が検出されている。中期から晩期に至るまでの集落構造の変遷が把握できる重要な遺跡。今回、条件の整った部分を追加指定する。

## 10 あうはいじあと しがけんおおつし 穴太廃寺跡【滋賀県大津市】

琵琶湖西岸に所在する古代（白鳳時代）の寺院跡。発掘調査によって創建期・再建期の建物が見つかった。再建伽藍の金堂は瓦積み基壇で、その東に塔を、金堂と塔の北側に講堂を配する。今回、築地塀に囲まれる寺院跡の北東部分を追加する。

## 11 おうみ おおつのみやしにしおりのいせき しがけんおおつし 近江大津宮錦織遺跡【滋賀県大津市】

天智天皇6年（667）、中大兄皇子（天智天皇）が飛鳥より遷都した宮跡。大海人皇子と大友皇子との間に起こった壬申の乱（672）によって廃絶した。発掘調査によって、内裏南門・正殿等の中核遺構が見ついている。今回、内裏の一角を追加する。

## 12 いせいせき しがけんもりやまし 伊勢遺跡【滋賀県守山市】

滋賀県南東部に位置する弥生時代後期から古墳時代前期の多数の大型掘立柱建物等が認められる集落遺跡。弥生時代から古墳時代への移行期において、拠点集落が解体し首長居館が成立する以前の集落の中核空間構造を示す貴重な事例。今回、条件の整った部分を追加指定する。

## 13 ふるいちこふんぐん おおさかふはびきのし ふじいでらし 古市古墳群【大阪府羽曳野市・藤井寺市】

こむろやまこふん  
古室山古墳

せきめんやまこふん  
赤面山古墳

おおとりづかこふん  
大鳥塚古墳

すけたやまこふん  
助太山古墳

なべづかこふん  
鍋塚古墳

しろやまこふん  
城山古墳

みねがづかこふん  
峯ヶ塚古墳

はかやまこふん  
墓山古墳

のなかこふん  
**野中古墳**

おうじんてんのうりょうこふんがいごうがいてい  
**応神天皇陵古墳外濠外堤**

はちづかこふん  
**鉢塚古墳**

やまこふん  
**はざみ山古墳**

あおやまこふん  
**青山古墳**

ばんしょやまこふん  
**蕃所山古墳**

いなりづかこふん  
**稲荷塚古墳**

ひがしやまこふん  
**東山古墳**

わりづかこふん  
**割塚古墳**

からとやまこふん  
**唐櫃山古墳**

まつかわづかこふん  
**松川塚古墳**

じょうがんじやまこふん  
**浄元寺山古墳**

大阪府の東南部に所在する4世紀後半から6世紀中葉にかけて形成された、超巨大前方後円墳をはじめ小型の円墳・方墳等で構成され、列島の古墳時代を考える上で重要な古墳群。現在20基が史跡に指定されており、今回、応神天皇陵古墳外濠外堤の一部で条件の整った区域を追加指定する。

#### **14 かみえん やつきやまこふん しまねけん いずもし 上塩冶築山古墳【島根県出雲市】**

いずもへいや  
出雲平野の南部中央の微高地上に築かれた6世紀後半の円墳。墳丘は径約46mで、周濠を含めた径は77m以上に及ぶ。埋葬施設は整美な切石積みの横穴式石室で、内部に大小2つの割抜式冢形石棺を持つ等、当該時期の有力首長墓として重要。

#### **15 なかずひがしはらいせき しまねけんますだし 中須東原遺跡【島根県益田市】**

ますだがわ  
14世紀から16世紀にかけて益田川河口域に発展した港湾遺跡。港を中心に展開した町の街区が良好な状態で残り、中世の港湾遺跡の成立と展開、港湾を利用した交易の内容まで知ることのできる重要な遺跡。今回、条件の整った部分を追加指定する。

#### **16 げんこうぼうらい ふくおかけんふくおかし 元寇防塁【福岡県福岡市】**

ぶんえい 文永11年(1274)のモンゴル襲来後、しっけんほうじょうときむね けんじ 執権北条時宗が建治2年(1276)に博多湾一体にわたり、九州の御家人に命じて構築させたいしついで石築地。今回、九州大学箱崎キャンパス跡地で新たに発見された部分を、石築地跡に隣接した溝状遺構を含めて追加指定する。

## 17 須玖岡本遺跡【福岡県春日市】

福岡平野の南部に所在し、弥生時代中期から後期にかけての墳墓、青銅器工房、居住域からなる『後漢書東夷伝』に登場する「奴国」の中心地とされる遺跡。今回、王墓を取り囲む墓域と推定される範囲の一部で条件の整った部分を追加指定する。

## 18 釜塚古墳【福岡県糸島市】

5世紀前葉に築造された径5.6mの円墳。墳丘は3段築成とみられ、周囲には径7.2mの周濠と、さらにその外側に幅5m以上の周堤が巡る。埋葬施設は単室の横穴式石室で、北部九州における横穴式石室の導入と変遷の在り方を知る上で重要。

## 19 御所山古墳【福岡県京都郡苅田町】

5世紀後半に築造された墳長約11.9mの3段築成の前方後円墳で、その規模は石塚山古墳とともに豊前地域で最大級。平成28年度に墳丘北側で、旧地形を構成する基盤層と推定陪冢（1号墳）に伴う周濠などを検出した部分を追加指定する。

## 20 鬼ノ岩屋・実相寺古墳群【大分県別府市】

別府湾に面した所に所在する古墳時代後期から終末期の7基からなる古墳群。九州的な構造の装飾を持つ横穴式石室と畿内的な構造の横穴式石室が近接して築造され、ヤマト政権と九州地域への関わりを知る上で重要。今回、天神畑古墳群の一部で条件の整った部分を追加指定する。

## 21 塚崎古墳群【鹿児島県肝属郡肝付町】

古墳時代前期後葉から中期中葉まで営まれた古墳群であり、古墳文化の南限として歴史上・学術上重要。墳丘が残存していない部分にも埋葬施設が存在するなど、古墳が所在する丘陵に多数の埋葬施設が所在することが明らかとなったことから、条件が整った部分を追加指定する。

## 登録記念物への登録

## 《登録記念物（遺跡関係）の新登録》 1件

### 1 二ヶ領用水【神奈川県川崎市】

神奈川県川崎市の北西部の多摩区から南東部の川崎区に広がる多摩川右岸低地部を流れる用水である。用水の名前は、稲毛領と川崎領の二つの領地にまたがることに由来する。用水の造営は、関東に移封した徳川家康から、江戸近郊の治水と新田開発を命じられた小泉次大夫吉次が用水奉行となって慶長2年（1597）に着工、同16年に完成したもので、多摩川における最古級の農業用水の一つとされている。上河原と宿河原の2箇所から取水し、久地にて合流、その下流で4本の用水堀に分水してさらに下流に導水していた。当地域にとり必要不可欠な農業用水であり、水田以外に畑や桃畑、梨畑にも利用された。また、昭和14年（1939）には、余剰水を使用した我が国初の公営工業用水道も設置された。現在、農業・工業用水としての役割をほぼ終えたが、一部区間は市民が親しめる空間として整備され、地域の人々に利活用されている。近世から現在に至る川崎発展の歴史を理解する上で意義深い。

## 《登録記念物（名勝地関係）の新登録》 4件

### 1 染谷氏庭園【千葉県柏市】

柏市東部の手賀沼南岸にある鷺野谷集落に所在する。染谷氏は江戸時代には名主役を務めた旧家である。敷地は地図で見ると逆三角形に近い形をしており、旧畑地の東部、主屋等の建物が建つ居住区域である西部、アラク山と呼ばれる屋敷林のある南部から構成されている。

敷地東部の旧畑地は、現在耕作などは行われておらず、空閑地となっている。居住区域である敷地西部は、長屋門、弘化4年（1847）建築の主屋などがあり、それらの建物は明治27年（1894）の銅版画『千葉縣下総國南相馬郡手賀村鷺野谷 染谷大太郎邸宅』にも描かれている。主屋の南には小規模な枯池や築山を設け、雪見燈籠と自然石の橋を設置している。敷地南部はアラク山と呼ばれる小高い屋敷林となっており、水源涵養林や薪の採取地として大切に管理されてきた。

幕末から近代にかけて整備された旧家の屋敷地の地割や庭園の様子を伝えており、同時代の千葉県の農村地域における造形をよく遺している意義深い事例と言える。

## 2 魚津浦の蜃気楼（御旅屋跡）【富山県魚津市】

富山湾は古くから蜃気楼の名所であり、特に発生する地域や時期が限定される上位蜃気楼がよく観測されることで知られている。今日、魚津浦の蜃気楼は、特別天然記念物ホタルイカ群遊海面、特別天然記念物魚津埋没林と並んで、魚津の三大奇観と称されている。こうした蜃気楼は、江戸時代以降、加賀藩主や加賀藩に仕えた儒学者などにより記録され、特に澤田宗堅による『寛文紀行』（寛文9年、1669）に記された蜃気楼の記録は、現在把握されている最古である。『魚津古今記』（天明8年、1788）には、加賀藩主前田綱紀が魚津で蜃気楼を実見して「喜見城」と呼称するよう命じたことが記されている。後の藩主治脩は寛政9年（1797）4月に、参勤交代の途上、魚津浦の御旅屋で蜃気楼に遭遇し、その変位の様相を『喜見城之圖』（金沢市立玉川図書館近世史料館蔵、史料名称『魚津蜃気楼之図附喜見城之図断』）として絵師に描かせた。御旅屋とは加賀藩とその支藩であった大聖寺藩及び富山藩の藩主専用の宿泊施設で、魚津の御旅屋は、魚津城下をめぐり北陸道に面して海岸沿いに位置していた。現在その跡地は公園となって地上に遺構は確認できないが、往時の町割りをよく維持して区画が特定できる上、現在も上位蜃気楼を観測できることが確認されており、由緒ある名所として意義深い。

## 3 長峯氏庭園（旧河原氏庭園）【長野県長野市】

江戸時代に城下町であった松代に所在する。松代では各武家屋敷を結んでいた水系を利用した庭園が今も数多く残る。旧城下町の南部に位置する竹山町にあり、かつては中下級藩士の居住区であった。町内には「カワ」「泉水路」「セギ」と呼ばれる3系統の水路が残っており、いずれも象山の麓を流れる神田川から取水している。それらの水は農業・防火・洗い物等、生活の様々な場面で使われた。

所有者である長峯氏は、松代藩士であった河原家の家系の生まれであり、幼少期から現在地に居住している。敷地は長方形に近い形で西に象山を控え、東にある門の前を「カワ」、敷地内を「泉水路」と畑地の水路「セギ」が通る。庭園は石組護岸の園池を中心に池畔にヒバ、マツ類、カエデ類等を配植する。造営時期等は明確でないものの、簡素なつくりの中に武家の庭園の趣を伝えている。

江戸時代の水系を現在まで保ち、当該地域における造園文化の発展に寄与した意義深い事例である。

#### 4 <sup>よこやま していえん み えけん み えぐんこもの ちょう</sup>横山氏庭園【三重県三重郡菰野町】

<sup>ございしょだけ</sup>御在所岳（標高 1, 212 m）の東に広がる平野部に位置する。横山氏は中世に菰野地域に移り住んだとされ、江戸時代には名主を務めた旧家である。昭和43年（1968）に横山氏が書院の新築と茶室の移築を行った際に、庭園研究者で設計者でもあった<sup>しげもりみ</sup>重森三<sup>れい</sup>玲（1896～1975）に設計を依頼して造られた。

正門から主屋玄関までの玄関前庭，主屋と書院の南側に広がる表庭，主屋と書院の北側の裏庭，茶室に伴う露地の四つからなる。

玄関前庭は門から玄関まで斜め方向に切石敷が伸びる。表庭は主屋と書院に南面する枯山水である。地面に白砂を敷き，その中に低い築山を心字形に配置している。背後の築山も含め，全体に大ぶりの石を多数組む。裏庭は主屋と書院に北面し，右方向から左方向へセメントによる斜線状の区切りを十條引き，その区切りの間に赤砂と白砂を交互に敷く。露地は，書院，<sup>こしかけまちあい</sup>腰掛待合，茶室等を飛石が結び，<sup>つくばい</sup>蹲踞を配している。

以上のように，昭和40年代に造られた庭園で，その意匠性は高く，当該地域の造園文化の発展に寄与した意義深い事例と言える。